

評価者	防災安全部長	柿崎 雅之
評価者	都市整備部長	伊藤 昌裕

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	危機管理対策
目標とすべきま ちの姿	武力攻撃事態やテロなどあらゆる危機事象を想定した体制が整備されており、市民の生命・財産は安心して守られている状況になっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	24.6%	平成27年度	21.5%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.9%	0.3%	0.5%
ちょうどよい	0.9%	35.6%	2.6%
効果不十分	2.6%	2.8%	23.2%

平成26年度

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.9%	0.4%	0.1%
ちょうどよい	1.3%	38.9%	1.4%
効果不十分	2.4%	3.9%	23.0%

平成27年度

<妥当性の分析>

◎防災安全部

お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が約39%で選択肢中最大値である。また、効果「不十分」では、「足りない」が「使いすぎ」を大きく上回っており、市民意識では、費用対効果としては、満足しつつ、もっと経費を投入することでさらなる効果を期待しているものと考えられる。また、前年度も同様であることから、恒常的な意識と捉えられる。

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	35.3%	32.9%	2.2%	29.6%	100.0%
平成27年度	34.2%	35.9%	3.0%	26.9%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

◎防災安全部

さまざまな危機管理事象に備えた対策を推進するため、職員や市民の危機意識を醸成させる研修や講座を開催するとともに、地震災害時業務継続計画(BCP)の実行性を高めるために図上訓練や職員対応備蓄品を確保する。また、危機事象に対応する人員の配置及び、育成を図り、危機管理体制の強化・充実を進める。

◎都市整備部

測定業務に従事する人員や予算確保など、制約のある中で関連課との調整を図り、効率的な運営を目指す。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
防安-01	危機管理推進事業	2,762	2,591	25,093	25,323	3.0	3.0	a	A
都整-43	放射性物質測定事業	3,034	3,071	6,749	6,836	0.5	0.5	b	B

**(3) 主な実施内容**

**◎防災安全部**  
 平成27年10月に退職自衛官を採用し、緊急事態対策、危機管理に係る研修訓練に参加させるとともに、災害対策本部員他を対象とした災害危機管理研修(図上訓練)をはじめ各種研修訓練を実施した。  
 災害時用として職員向けの食糧、飲料水を備蓄した。  
 市民向けの放射能啓発パンフレットを作成した。

**◎都市整備部**  
 学校や保育園の給食食材等の放射性物質を測定した。

**【実施できなかった事業とその理由等】**

**(4) 平成27年度の取組の評価**

**◎防災安全部**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**  
 さまざまな危機管理事象に備えた対策を推進するため、また、地震災害時業務継続計画(BCP)の実行性を高めるために災害対策本部員・連絡員を対象として災害危機管理研修(図上訓練)をはじめとした各種研修訓練を実施した。また、市民向けの放射能啓発パンフレットを作成するとともに職員対応食糧等を備蓄した。  
 危機事象に対応する人員の配置及び、育成を図り、危機管理体制の強化・充実を進めることを目的に、自衛隊OBを職員として採用した。

**◎都市整備部**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**  
 本事業を効率的に実施するために、今後も適正な人員配置と予算措置が必要となる。また、機器の導入から5年が経過していることから、機器の修繕費等が増加する可能性がある。

**3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性**

**◎防災安全部**  
 緊急時を勘案して事業の推進を図る。

**◎都市整備部**  
 今年度も同様な対応を行う。

**4 平成28年度の目標**

**◎防災安全部**  
 地震災害時業務継続計画(BCP)の実行性を高めるため、また、国民保護法に基づく緊急処理事態における対応能力向上のための図上訓練を実施するほか、さまざまな危機管理事象に備えた対策を推進するため、職員や市民の危機意識を醸成させる研修や講座を開催する。  
 また、平成25年度に整備した緊急事態対策備蓄品の保存期間終了に伴う更新を実施するなど、危機管理体制の強化・充実を進める。

**◎都市整備部**  
 今年度も同様な対応を行う。

**5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)**

整理番号	防安-01	事業名	危機管理推進事業					単位	回	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	危機管理に関する訓練の実施状況											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
各種訓練を実施することで、危機管理意識の向上が図られるため	目標値	3	3	3								
	実績値	2	2									
	達成率	66.7%	66.7%									

整理番号	都整-43	事業名	放射性物質測定事業								
指標の内容	測定実施検体数					単位	検体	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
安全・安心な市民生活を確保するため	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200				
	実績値	1,263	1,073								
	達成率	105.3%	89.4%								

**参考 前年度外部評価結果への対応**

<p><b>鎌倉市民評価委員会からの指摘</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政と自主防災組織など地域の連携の更なる推進が課題である。</li> <li>・集中豪雨や台風など、がけ崩れや土砂の流出等による災害の発生を防ぐため、防災工事は今後も多く発生していく可能性が高まっており、課題として認識すべきである。</li> <li>・危機管理として武力攻撃事態やテロを想定した体制づくりが整備されているとあるが、鎌倉における危機は何か、さまざまな危機管理対策を考慮願う。</li> </ul>	⇒	<p><b>指摘への対応、コメント等</b></p> <p>◎防災安全部 自主防災組織が行う活動や訓練、連合会との連携を密にし、総合防災課、危機管理課が一体となった業務遂行に努める。</p> <p>◎防災安全部 昨今の防災・伐採工事費用の助成状況や急傾斜地崩壊危険区域の指定状況を踏まえ、必要とする防災工事等の着実な推進を図る。</p> <p>◎防災安全部 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、予測される各種危機管理事態を想定した図上・実動訓練により、危機管理体制の充実を図る。</p>
---	---	--

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

・BCPの重要性など課題認識はきちんとしており、実行性を高めるための図上訓練や職員の研修訓練等を定期的に行い、技術及び知識の伝承を図っている。  
 ・庁舎の老朽化による事故防止、災害時の拠点として活用できるよう機能を維持している。

		評価の内訳				⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	0	→		7
効果	○	0	△	1	—	7	—

### 《課題》

・研修・講習に力を入れているようだが、その内容がよくわからない。  
 ・武力攻撃事態やテロについて鎌倉市はどのような体制を整えているのか。自衛隊OBを職員として採用したとのことであるが、どのように効果があったのかが分からない。  
 ・放射能物質の測定をした結果どうだったかが明らかになっていない。  
 ・地震災害時業務継続計画(BCP)の実行性を高めることが求められる。  
 ・HPは常に最新の情報に更新し、リンク切れなども確認しておく必要がある。  
 ・予算増加の見込みがあるにもかかわらず、方向性が「同様な対応」というのは如何なものか。さらなる対策・努力が求められる。

### 《提言》

・自然災害以外の危機管理について具体性がみられず、災害の種類別にBCPを策定すべきである。  
 ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を控え、職員に対する図上訓練・研修のみで万全とは思えず、関連機関を含む職員に対する計画的な実地訓練の実施、市民に対する危機管理意識の高揚を図っていくべきである。  
 ・市民向けの放射能啓発パンフレットの作成、学校や保育園の給食食材等の放射性物質の測定は大事であり、放射性物質に関する情報を風化させず、継続的に情報公開すべきである。  
 ・目標及び指標が事業の効果を測定できるものになっていないため、再考すべきである。